

ダイナミック CT 検査が早期診断に有用であった Meckel 憩室の一例

藤野 歩¹⁾ 内藤 聖子¹⁾ 山崎 靖人¹⁾
森安 善生¹⁾ 穠吉 秀隆¹⁾ 深町 滋¹⁾
喜多山 昇¹⁾ 小川 厚¹⁾ 河原 一雅²⁾
中島 力哉³⁾ 浜本 邦洋⁴⁾ 廣瀬 伸一⁵⁾

1) 福岡大学筑紫病院小児科

2) 福岡大学筑紫病院外科

3) 福岡大学筑紫病院放射線科

4) 国際医療福祉大学

5) 福岡大学医学部小児科

要旨：今回我々はダイナミック CT で小腸内の出血源が推定でき、早急に外科的切除が可能であった Meckel 憩室の一例を経験したので報告する。症例は4歳男児。血便と意識障害で福岡大学筑紫病院へ入院。血液検査で小球性低色素性貧血を認め、一般生化学検査で UN の上昇を認める以外異常はみられなかった。輸液管理で意識障害は速やかに消失したが貧血は進行した。緊急に行った下部消化管内視鏡検査でパウヒン弁からの出血が観察され小腸出血が考えられたためダイナミック CT 検査を施行した。上腸間膜動脈付近に憩室内出血が推定されたため、緊急開腹術を施行した。回腸末端より口側 45cm の腸間膜附着側に 4×3cm の憩室を確認、切除した。病理組織学的には異所性胃粘膜を伴っていた。ダイナミック CT 検査は、ある一定量以上の出血が持続しているメッケル憩室による消化管出血の早期診断に有用であると考えられた。

キーワード：Meckel 憩室，ダイナミック CT 検査，早期診断，消化管出血，血便